

## シンポジウム「途上国開発と地理学」発表要旨

### 主旨説明

奥村 晃 史 (広島大学文学部)

21世紀をまぢかに控えた現在, 自然科学においても社会・人文科学においても, 環境は最も重要なキーワードのひとつとなっている。そして, 環境にはたらきかけることによって経済的・社会的発展をめざす途上国開発においても, 環境との調和を基礎とする開発の持続可能性が問われるようになって久しい。また, 1990年代を通じて実施された国際連合・国際防災旬年にみられる, 人類の安全と生存への関心の高まりも, 環境問題への関心と軌を一にするものである。本シンポジウムの目的は, 途上国開発に果たす地理学の役割を検証し, 将来の方向を探ることにある。その際, 地理学が開発の現場となる地域を多様なスケールと視点から分析するポテンシャルをもつことを確認すべきであろう。資源の有効な利用という目的達成だけをめざす開発から, 環境破壊や災害のようないわば負の資源の適正な管理をも含めた開発へと移行するなかで, 開発の実現可能性と持続可能性の検証において地理学のもつ可能性をあらためて考えてみたい。